

## 地下水用語集

公益社団法人 日本地下水学会 [編]  
理工図書株式会社 2011年11月9日初版第1刷発行  
B5版 143頁 ISBN978-4-8446-0782-3  
定価 本体2,400円+税

本書は、公益社団法人日本地下水学会の創立50周年を記念して出版された、地下水に関わる各種専門用語を解説した用語集である。18名で構成される編集委員会が選定した約1200の見出し語について、78名の執筆者により、一語につき100～400字程度の説明が加えられている。対象読者としては、地下水に関わる研究者や技術者の他、一般の方々を想定している。英語表記、同意語や関連用語の記載も充実しており、利用者の視点を考慮した編集となっている。

ほんの一例として、本書に収録されている用語をア～ワ行までランダムに拾ってみよう。

アルカリ度、井戸、運動エネルギー、エルニーニョ、汚染源、環境基準、逆解析、グリーン・アンブト式、嫌気性微生物、洪積層、酸化還元電位、浸透能、水理ポテンシャル、線形計画法、相対湿度、脱窒、地下水、通水施設、テイラー展開、毒性、ナビエ・ストークスの方程式、ニューラルネットワーク、濡れ相流体、根腐れ、ノイマン型境界条件、発がん性物質、氷河期、分水界、ペンマン法、ポリ塩化ビフェニル、マクロポア、湖、名水百選、モニタリング、ヤコブの方法、有機物、溶出、ラングミュアの吸着等温式、流束、ルーフィング、連続の式、漏水係数、ワジ。

実に多彩である。これらの用語だけを眺めていると、何の専門分野の用語集なのか判断が付きにくいのではないか。1200あまりの見出し語は、物理学、化学、生物学、地学、数学、工学、気象学、環境科学、社会学など、様々な研究分野に属するものである。地下水研究が極めて学

際的・横断的な研究領域であることがわかる。土壤物理学の専門用語も多く含まれているので、「新編土壤物理学用語事典（土壤物理学会編、養賢堂、2002）」での解説と読み比べてみるのも面白い。

さて、改めて「地下水学（groundwater hydrology）」という用語を本書で調べてみると、「地球上の水循環を構成する水文要素の中で、地表面下の水（地下水）の動きや地下の地質・水理などを主たる研究対象とする学問分野。地表での水文現象の研究も密接に関連している。（後略）」とある。後段の「地表での水文現象」は、まさに土壤物理学の研究対象である。雨量が多い日本では土壤中の水の動きは主に下向きとなることから、地下水の硝酸汚染に見られるように、土壤の管理法が地下水水質に強く影響することは周知の事実であろう。土壤物理学は地下水と”つながって”いるのである。会員諸氏には、土壤物理学と密接に関連する地下水のことを良く理解するため、折に触れて本書を利用されることをお勧めしたい。

なお、本用語集は見出し語がアイウエオ順に配列されていることから、「読む用語集」というよりも「引く用語集」の趣が強い。前述の土壤物理学用語事典では、収録用語をアイウエオ順ではなく15の大項目に分け、さらにその内容に脈絡を与えて配列し、事典的性格を持たせている。もちろん、索引を利用して目的の用語を簡単に探すこともできる。初心者には「読む用語集」の方が知識の体系化には役立つように思うが、これは個人の好みによるかもしれない。

中辻敏朗（北海道立総合研究機構中央農業試験場）